

令和6年度第4回森町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定推進委員会 議事録

日 時 令和7年3月21日（金） 14:00～15:00

場 所 森町公民館 1階中会議室

出席者 別添委員会名簿のとおり

概 要 以下のとおり

1. 開 会

川村企画振興課長より挨拶

2. 委員長挨拶

遠藤委員長より挨拶

3. 議 事

① 第2次森町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業調書について

第2次森町まち・ひと・しごと創生総合戦略登載事業調書を用いて、事務局から既存事業の主要な成果、反省点等について説明し、意見を聴取。

～委員意見～

菊池委員

「新規就農者等の定着促進に向けた支援事業」について、収入保険加入支援の部分は共済のことか。

事務局

その通りである。災害等の収入減等に対する保険があるが、あまり加入者が多くなかったため、加入が増えるよう支援するものであり、実績の数値は支援した件数である。

岩島委員

「ちやつぶ林館大規模改修事業」について、ちやつぶ林館の利用者でいうと入浴料金助成券の利用者がほとんどだと思うが、そのような方は利用者全体の内何割くらいか。

事務局

その数字は手元にないため後ほどお伝えしたいと思うが、温泉の利用者が少ないタイミング等あるかと思うので、第3次においては魅力を高め利用者を増やすという方向で進めたいと思う。

佐々木委員

今の質問に続きちやつぶ林館について、維持や更新に係る費用がかなりかかってくるが、指定管理者や購入の希望は無いのか。また、町で売却等は考えていないのか。

岡嶋町長

現在の契約が令和7年度で満了となり、8年度以降また指定管理者を公募するという流れになるかと思う。

佐藤委員

施設内の食堂は別の管理か。

岡嶋町長

温泉、食堂、直売所全て同じ会社で管理している。

佐々木委員

指定管理者と町とである程度区別されていると思うが、今後も負担がかかるので、完全に任せ方がいいのではとも思う。

岡嶋町長

今回はそういった内容を検討するいいタイミングだと思う。今回試験的に指定管理料を設けて、その中でお互いができることを整理して方向性を見出したり、民間のノウハウを使った魅力化等図っていききたい。

岩島委員

「介護職員等就労（継続）祝金事業」について、新規の部分は高校生が多いのか。

事務局

年齢層の内訳まで把握していないが、実績の数としては予想を上回るものではあった。

岩島委員

外国人労働者が今後介護業界に参入の可能性があり、またそのような力も必要になってくると思うので、人材不足の解消に繋がると思う。

事務局

貴重なご意見として担当課に共有する。

② 令和6年度第3回委員会（書面開催）の意見対応表について

第3回委員会に係る意見対応表を用いて、事務局から各委員より寄せられた意見及びその回答について説明。

③ 第3次森町創生総合戦略（案）及び登載事業調書（案）について

第3次森町創生総合戦略（案）及び登載事業調書（案）について説明し、意見を聴取。

～委員意見～

遠藤委員長

「北海道森高等学校学生寮運営補助事業」について、町外からの学生は現在どれくらいいるのか。

脇澤教頭

今年度でいうと4名、その内3名が入寮を希望している。

遠藤委員長

寮は既にあるのか。また、人数は今後も増えそうか。

脇澤教頭

寮は現在民間の企業に準備を進めてもらっている。また、この度は野球をやりたいという学生が来たが、他競技でも他地域で難しい場合はそのニーズを拾っていきたい。

伊藤委員

戦略（案）について、P4等のグラフにおける各人口の正確な区分けはどのようになっているか。また、P4のグラフは国のデータの引用で現状のままの推移、P5のグラフは2060年での人口を1万人とする場合の目標とのことだが、どちらのデータを目指すかが一つのポイントだと思う。現在の計画での実現性は薄いと思うので今後チャレンジングな施策等取り組んでいただければと思う。

事務局

まず、各人口について、年少人口が0～14歳、生産年齢人口が15～64歳、高齢人口が65歳以上となっている。グラフの内容はご認識の通りで、振り返りにも記載した通り人口減少が深刻となっており、町としては内容を受け止めながら第3次に進めていくが、人口ビジョンについて、今まで国の更新に伴って自治体も更新するという流れだったが現状国のものが更新されていないので、今回は現行のものを活用したという経緯がある。そちらについては、町の最上位計画の森町総合開発振興計画が令和9年度までということで、そちらの見直しの際に議論したい。

伊藤委員

人口ビジョン策定の際にも委員としていたが、その時には頑張ってやっていくという話だったが、現実には甘くなかった。その中で現状に即して進めるのか、新しい施策目標に向けて目指すのか、という部分について今後の森町を考え議論しなければならないと思う。

事務局

国のビジョンに合わせるのであれば何もしなくてもいいが、そうではなく高い目標を持って頑張るということで、1次、2次の戦略を進めてきたが委員がおっしゃる通り現実には甘くなく、全てが駄目というわけではないがこちらとしても反省するところではある。今度の最上位計画の見直しの際には、人口ビジョンについて相当議論しなければならないところなので、皆様とも考えていければと思う。

伊藤委員

マイナスな話ばかりだったので今度はプラスの方向だが、過去の推計で2060年には世界人口が100億人を超えるというものがあつた。そうすると食料確保が問題になるが、現状北海道の食べ物が多く海外に輸出されているのを見ると、森町も魅力的な農水産物で

打って出ていけると思うので、新たな企業や人材を探すのもそうだが、今いる人たちについても、少ない中でも稼げるような取組・支援等議論いただきたい。

事務局

貴重なご意見として頂戴する。

森永委員

「森町担い手確保支援事業」について、今年度から受け入れているのか。

事務局

一旦説明会を開催し、手挙げした事業者と受け入れ人材とで話し合いをするという流れで、今年度から出来るよう動いていくとのことである。

伊藤委員

既存の外国人人材についても支援してもらえれば、より良い効果が生まれると思う。

佐藤委員

先日、新聞で森町に官僚の方が派遣されるという記事を見た。期間は1年とのことだが、どのような支援を考えているのか。

事務局

伴走支援の事業についてだが、農林業の分野での支援を予定していて、事業調書にもあるが洋樽に関わる部分が一つ、もう一つは大麦・小麦の生産の両立から市場開拓までの支援という2点を考えている。

佐藤委員

大麦と小麦は新たに生産するということか。

岡嶋町長

小麦が既に行っている。また、この支援は急遽国から打ち出された事業で期間も1年間のみであるが、チャレンジングに進めながら、他にも来てくれた方をもとに更なる人脈・関係を開いていくことが可能となる可能性もあるので、頑張っ取り組みたい。

遠藤委員長

最後に町長から一言お願いします。

岡嶋町長

町長になってから本委員会に参加させていただいているが、様々な分野の方と各事業について話し合いながら共につくっていくということは大事な要素であると思う。話にもあったが、これから最上位計画の見直しを控えている中、他自治体もそうだが人口減少により危機的な状況にある。その中でも地域住民に力を与えるような施策を民間も含め、皆様と考えることが重要だと思う。また、積み上げるだけでなく、時には従来のものを削りながら新しいものに集約するという必要となるので、そういったことも投げかけながら次の

計画を組み立てなければいけないと思うので、引き続き意見等いただきながら取り組んでいきたい。

④ 今後のスケジュールについて

第3次森町創生総合戦略（案）及び登載事業調書（案）について意見公募を実施し、いただいた意見をもとに書面会議を実施する。

第3次森町創生総合戦略については、令和7年4月中の策定を予定。

4. その他

5. 閉会